

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人滋賀大学

1 全体評価

滋賀大学は、地域に根ざす視点とグローバルな視野とをあわせもつ「知の拠点」として、豊かな人間性を備えた専門性の高い職業人の養成と、創造的な学術研究への挑戦を通して、社会の持続可能な発展に貢献することを基本理念としている。第3期中期目標期間においては、こうした理念を踏まえて、グローバル化する社会にふさわしい未来志向で文理融合の学識と、地域の発展に貢献できる課題解決能力を備えた、イノベーティブな創造力を有しリーダーシップを発揮できる人材の育成をさらに推し進めるとともに、これまでの重点領域である環境・リスクの研究課題に継続して取り組むのみならず、新たな重点領域を切り拓いていくことを目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、大学院データサイエンス研究科博士後期課程を設置し、データサイエンス教育研究センターをはじめとするデータサイエンス領域における国内最大規模の教育拠点を形成するとともに、教材開発によるデータサイエンス教育の学外への普及に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○ 業界を代表するデータサイエンティストの養成が急務であるという社会からの要請に応え、大学院博士前期課程の学年進行の完成を待たずに前倒しで、令和2年4月に大学院データサイエンス研究科博士後期課程を設置しており、データサイエンス教育研究センター（平成28年度設置）、データサイエンス学部（平成29年度設置）、データサイエンス研究科博士前期課程（令和元年度設置）と合わせ、データサイエンス領域における国内最大規模の教育研究拠点を形成している。また、教育学部では、Society5.0時代に活躍する新しいタイプの教師の養成を目指す「教育データサイエンティスト養成プログラム」を開始しており、一定のデータサイエンス関連科目の履修要件等を満たすことにより、教育データサイエンティストの資格を授与することとしている。（ユニット「ビッグデータ時代におけるデータサイエンス教育研究拠点の形成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 寄附金獲得活動の積極的展開による外部資金比率（寄附金）の上昇

令和2年度に新たに「きらきら輝く滋賀大学基金」を創設し特定基金を設けるなど寄附者の意向に沿った寄附の受入れを可能とするとともに、高額寄附への表彰制度の整備や、データサイエンスなど教育研究に関する大学広報の展開等により、寄附金収入は第3期中で最高の約2億9,275万円（対前年度比約1億4,467万円増）となり、外部資金比率（寄附金）が4.6%に上昇している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 外部資金を活用した教育活動支援

教育学部における障害児教育・音楽教育活動に対し関心を寄せる支援者から1億1,000万円の寄附を受け基金を設立しており、その基金を活用し令和2年10月に附属音楽教育支援センターを開設するとともに、障害児者を主な対象とした音楽教育プログラムの提供、音楽活動の支援を開始している。また、令和元年度に設立した特定基金「附属学校園いまを生きる基金」について、令和2年度末の累計額は約2,600万円となっており、教育学部附属学校園に学ぶ幼児・児童・生徒の教育環境の整備に使用することとしている。

○ MOOC教材によるデータサイエンス教育の学外への展開

令和2年度にMOOC教材「大学生のためのデータサイエンス（Ⅲ）問題解決編」を新たに開発し、既存のMOOC教材（「高校生のためのデータサイエンス」「大学生のためのデータサイエンス（Ⅰ）」「大学生のためのデータサイエンス（Ⅱ）」）と合わせた令和2年度の受講者数は、令和元年度を大幅に上回る延べ2万5,000名となっており、平成29年度の開講以来延べ5万名を突破している。また、大学が開発したデータサイエンス教材について、他大学（岡山大学、富山大学、金沢大学、福井大学）でも活用されているほか、企業での社内教育に活用されている。